

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年3月8日

【評価実施概要】

事業所番号	1172501551
法人名	株式会社ウェルフェアシステム
事業所名	グループホームえがお
所在地	359-1145 埼玉県所沢市山口522-1 (電話) 04-2903-5650

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年3月4日

【情報提供票より】(19年12月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 8人, 非常勤 7人, 常勤換算 12.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造耐火構造造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	10,000円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (120,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり1,315円			

(4) 利用者の概要(12月21日現在)

利用者人数	15 名	男性 5 名	女性 10 名
要介護1	5 名	要介護2	1 名
要介護3	7 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 79.1 歳	最低 54 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石山記念病院、春野クリニック、けやき台歯科
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは木造の2階建ての建物で、目の前が小学校という住宅地にある。近くには池や川、公園があり、天気の良い日には散歩に出かけ、四季折々の自然が楽しめる環境である。ホーム内の共用スペースは決して広くはないが、屋内は利用しやすく整理整頓がされている。また、2階の日当たりの良いスペースにはベンチを置き、くつろぎの場をつくるなどの工夫をしている。居室は畳部屋で、自分の好みの環境づくりがなされ、利用者は在宅時と同じようにゆったりと生活できるよう配慮がなされている。「その人らしく」というホームの理念のもと、職員は熱心に利用者のケアにあたり、利用者は安心して毎日を過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で主な改善点として指摘があった玄関入口のセンサーの音量については、センサーを撤去し、家庭的なホームづくりを目指し、管理者及び職員で話し合いを重ねている。なお、介護計画作成に関しては、今後も家族参加を課題とし取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者は自己評価、外部評価の意義を十分理解して取り組んでいるが、職員の参画、全職員の連携により評価を実施するまでには至っていない。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	市の担当者も参加して定期的に会議が開催されている。また、自治会の代表の参加により、ホームの状況を地域に理解してもらう機会にもなっている。また、会議を介してボランティアの申し出があるなど、ホームと地域との連携を図る場になっている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	相談窓口や意見箱の設置、本社への連絡先の掲示など、意見や苦情の対応に努めている。また、職員は家族が面会に来た時に、よく家族の話を伺うようにし、利用者や家族の不満、不安などを知り、スタッフ会議や介護計画作成時に活かしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩に出かけたら近所の方々に挨拶は欠かさず行っている。また、ボランティアとして地域の人々がホームに来て活動をしたり、地域の敬老会や盆踊りなどに利用者が参加している。地域のホームへの理解は得られており、ホームとして地域との交流をどう深めていけるかを課題としてさらなる関係づくりに努めている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしく」とは何か、「地域密着」とは何かということ踏まえて、「入居されている方の人間としての尊厳を守り、束縛のない家庭的な暮らしを送っていただくよう援助いたします」という理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員会議などで、職員と理念について話し合い、また、日々の生活の中でも管理者は職員にわかりやすく理念を説明している。理念はホーム入口にも掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩に出かけたら近所の方々に挨拶は欠かさず行っている。また、ボランティアとして地域の人々がホームに来て活動をしたり、地域の敬老会や盆踊りなどに利用者が参加している。地域との交流をどう深めていけるかを課題とし、さらなる関係づくりに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者は自己評価、外部評価の意義を十分理解して取り組んでいる。評価結果はホーム内に掲示したり、結果を踏まえ改善に努めたりしている。しかし、職員の参画、全職員の連携により評価を実施するまでには至っていない。		職員も加えた全職員で評価に取り組み、ホーム全体での話し合いと必要な課題の改善に取り組んでいただくことを期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的に、市及び地域包括支援センターの職員、民生員、自治会の役員、家族などが集まり開催している。必要な情報交換や意見交換を行い、ホームのことを行政や地域に知ってもらう良い機会となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「ヒヤリハット」や「事故」などの報告は、毎月、市の担当課へ直接伺って行っている。また、更新認定などを通して、市との関係は密接である。管理者は積極的に市の連絡協議会にも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、全利用者の家族へ便りを送り、利用者の生活の様子やホームの行事や職員の異動などをお知らせしている。また、レシートを添えて小遣い帳の報告をしている。病気や怪我などがあった場合は、そのつど電話連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「重要事項説明書」に苦情の窓口を明記し、ホームの入口には意見箱を設置している。また、毎月の便りの中に返信用封筒を同封し、家族の意見をできるだけ聞けるように工夫している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当職員の異動や離職を積極的に利用者に告げることとはせず、利用者から聞かれたら答えるなど自然体で対応し、他の職員が配慮もしている。家族へは毎月の便りで、後日報告している。職場のチームワークの研修を行うなどして、職員の離職を少なくする努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員が外部研修に参加することは、現在の体制では難しいため、月1回内部研修を実施し、管理者が全職員に必要な研修を行っている。なお、管理者は積極的に外部研修に参加し、自分が学んだ知識を職員に還元している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内6つのグループホームの連絡会が立ち上がり、相互の情報交換などの交流が始まっている。今後はさらに近隣のホームの職員同志の交流も深め、サービスの質を向上させていくよう取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>在宅からの希望者には、何度も見学を繰り返してもらい、特に自室となる居室は良く確認してもらって、本人・家族が納得してからホームを利用してもらうよう対応している。また、病院からの希望者には、病院の相談員に同席してもらい、一日の過ごし方などを利用者丁寧に説明するなど努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者を常に人生の年長者として敬い、謙虚な態度で接している。食事介助やトイレ介助などは、利用者を支援される一方の立場にはおらず、利用者は安心して支援を受けている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、利用者一人ひとりの話をよく聞くようにして、その人の思いや意向を理解するよう心がけている。なお、本人から思いを伺うことが困難な場合は、家族から伺うなど思いの把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、介護支援専門員である管理者を中心に対象の利用者や家族の状況を認識している職員とよく話し合っ作成している。なお、作成した計画は、本人や家族に必ず確認している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、更新時及び利用者の状況が変化した時に見直しを行っている。その際には、利用者、家族、職員など関わる全ての人の話をよく聞き、利用者の状況にあった計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	身寄りの無い方や家族が忙しい方など、かかりつけ医の受診や通院ができない利用者については、職員が付き添って受診や通院をするなどの対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力医療機関に内科があり、定期的に往診を行っている。なお、入居する前からのかかりつけ医を希望する利用者は自由に受診できるようになっている。主治医に利用者の情報を伝えたり、主治医から意見をもらうなどの関係を持ち、一人ひとりの利用者に合った適切な支援を行うよう努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、ホームには重度化した利用者がない状況もあり、現時点では重度化や終末期に向けた十分な話し合いや方針の決定には至っていない。終末期のケアまで実施していないことは家族に説明しており、かかりつけ医との連携により、優先的に入院を受けてもらう体制はできている。		ホームでの限界なども含め、利用者が重度化し、終末期を迎えたらどうするかということ、管理者、職員に限らず、本人、家族、かかりつけ医などを交え話し合い、方針を確立し関係者全員で共有することが望まれる。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者をきちんと姓名で呼びかけ、常に丁寧に対応している。記録等の書類は事務所の棚の中に保管され、職員が不在の場合は事務所には施錠している。なお、職員には利用者のプライバシー保護や個人情報の取り扱いについて職員会議などで注意を促している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員やホームの都合を優先にした支援や活動はしていない。食事などの決まった時間の他は、とくに日課を定めず、利用者一人ひとりのその日の体調や気分に合わせ支援し、自分のペースで日々を過ごしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は半調理された材料を一括して配送してもらい、職員と利用者が好みの味付けができ、バランスの良い食事を摂れるしくみになっている。準備や食事は職員と利用者が一緒に行い、テーブル拭きや下膳、お茶を配るなどできることは利用者が行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週末以外は毎日入浴ができる。入浴時間は利用者に入浴の希望を伺い、できるだけ希望に沿った対応をしている。		
に					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の時や洗濯物をたたんだりなど、利用者ができる事ややりたい事などは役割や楽しみごととして行ってもらっている。また、裁縫や絵画、園芸などの趣味を活動に活かしている。外出の希望を伺い買い物に出かけるなど気晴らしの支援も行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、近隣の公園などに散歩に出かけるなどしてなるべく戸外で過ごすように努めている。また、近くの喫茶店に出かけたり、理髪店に定期的に通ったり、希望を伺い買い物に出かけるなど支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	表通りの交通量が多いため利用者の安全確保と外部からの侵入者防止のため、やむを得ず玄関は施錠している。利用者が表に出たいという意思を示したり、行動を確認した場合は職員と一緒に外に出るように対応している。居室には鍵をかけることはない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の指導で利用者も参加して避難訓練を実施している。全職員が訓練を実施すること、近隣の連携を図っていくことが今後の課題である。		全職員が訓練を受けられるよう避難訓練は繰り返し実施するなどの工夫をしていただきたい。ホームは住宅地であり、災害時には地域の人々との連携となるので、地域の方も一緒に避難訓練を実施するなどして、災害時に地域の協力が得られるよう働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は食べやすいペースト状にしたり、また、必要に応じて医師に相談して、利用者一人ひとりの状態に合わせて提供している。摂取量や水分量はきちんと記録チェックして申し送りを行い、必要量が確保できるように気を付けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には近隣の方から寄付していただいた家具や人形が飾っており、家庭的な雰囲気をつくっている。また、散歩の途中でもらった近所の花が居間に活けてあり、それを眺めながら職員と利用者が談笑するなど自然体で過ごせるような環境がつけられている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇や写真など、利用者の好みや馴染みの物を持ち込むことができる。各居室には畳が敷かれ、くつろげる空間になっており、利用者の好みでベットを置いたり、布団にしたり、利用者が安心して居心地よく過ごせるような工夫と配慮をしている。		